

矢作川流域圏懇談会通信

H26 山部会編 vol.1



発行日：平成 26 年 6 月
編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第 16 回山部会WGを開催しました！

5 月 16 日（金曜日）に第 16 回山部会WGが開催されました。
今回のWGは、平成 26 年度はじめてのWGということもあり、
昨年度から山部会で取り組んでいる 4 つのことについて、今年度の
進め方等について話し合いました。

日時：平成 26 年 5 月 16 日（金）～17 日（土）
場所：モンゴル村 管理棟 2F 会議室
参加者：25 名（事務局含む）



◆主な会議内容

1. 山村再生担い手づくり事例集について

昨年度は山村で活動している 20 の団体へ矢作川流域圏懇談会（以下、懇談会）として取材を行い事例集としてとりまとめました。

懇談会と取材者の新しい交流が生まれ、生の声を聞かないと分からない各団体の特徴等について記録することができました。今年度も取材対象のエリア、団体を変えて実施していくこととなりました。



2. 山村ミーティングについて

山村ミーティングは矢作川流域圏の山村で活動する個人・団体が困ったときに話し合え、様々な情報を共有可能となる仕組みづくりを行うことを目的に進めています。

今年度も矢作川流域圏で開催されている結の炭家などへ参加し、山村で活動する方々と連携が可能な範囲でゆるやかに実施を継続していきます。



3. 矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

森づくりガイドラインは、矢作川流域圏の特徴的な森づくりを、最終的に冊子としてとりまとめることを目的に進めています。

今年度は昨年度に引き続き、矢作川流域圏に属する行政や市民の方々と森づくりに関するデータを収集し、情報共有を行います。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインは、矢作川流域圏の木づかいの推進を実現化するための実践的なとりくみについて話し合ってきました。

今年度は、活動方針を共有化したうえで、具体的な当面の活動として矢作川流域圏における木づかいの事例・活動を参考にしながら川・海部会の方々と連携も含めて話し合っていきます。



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、建設専門官 真柄
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト（yahagigawa@ijinet.or.jp）までお送りください。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山村再生担い手事例集について

今年度は対象を増やしながらか、川・海部会の方々とも連携して進めていくこととなりました。

○主な意見

- ・山村再生事例集の対象を増やし、流域再生担い手事例集としてとりまとめられるとよい。(蔵治)
- ・岐阜で活動している団体があれば教えて頂きたい。(洲崎)
- ・取材者の募集も引き続きかけていく。応募したい方は洲崎氏に連絡する。(事務局)
- ・各団体の所在地・活動範囲などがわかる資料があるとよい。(今村)
- ・今年も川と海の部会にいてPRをする。(洲崎)



●山村ミーティングについて

昨年度同様、各地域で実施されている活動と連携しながら、できるところから進めていくこととなりました。

○主な意見

- ・矢作川流域圏の山村で活動している若手同士、課題や悩みについて相談し合える仕組みを作ればよい。(丹羽)
- ・既存の木の駅プロジェクト等の活動と連携しながら進めていくことがよい。(丹羽)



●矢作川流域圏森づくりガイドラインについて

ガイドラインの作成に向けて、今年度とりまとめる内容、役割について情報共有がなされました。

○主な意見

- ・今年度も引き続き検討を進め、来年度くらいにガイドラインとして冊子にまとめたい。(蔵治)
- ・矢作川流域の特徴的な森づくりについて、カタログ化していく。(蔵治)
- ・岐阜県は健全で豊かな森づくりから、地域展開型の森づくりを実施している。県内にある25の森のうち2つをモデル林として選定しているため、森づくりとして取り上げてほしい。(高井)



●矢作川流域圏木づかいガイドラインについて

木づかいガイドラインについて、これまでライフステージごとに木づかいの推進方策について、意見交換をしてきました。

今後は、ガイドラインの作成方針にもある「市民目線」を意識していくことが重要とされたため、ガイドライン作成にあたり今後のパートナーとなりうる方を、メンバーから推薦していくことが決まりました。今後、検討をすすめていく中で共同して作成していくことの認識が共有されました。

○今後の実施予定

- ・木の駅に関して、個人の木の利用、簡易製材・ちょっとした木工の製作。ベンチ、小屋みたいなものを作って山の中に拠点を作るイメージはある。(南木)
- ・木工教室みたいなものを開催できないか。子供用の本棚や大人向けの食器棚などを作って家で使えとよい。(松井)
- ・大阪府の森林環境税の委員会では、ヒートアイランドの防止のために木質の外壁、屋上パネルへの助成をしている。そういう製品を作れるとよい。(蔵治)
- ・木の駅プロジェクトでベンチなどを作るとまちの雰囲気が変わる。森の中の24坪の敷地、製材所の横で不良材をどんどん使える。(丹羽)
- ・豊田のまちなかは殺風景ともいわれており、まちなかに緑や木の物を増やしたい一方で、自然としての矢作川を売り込むことも面白い。例えばモデルポケットパークなんかもおもしろい(洲崎)
- ・木を使うという面では移住した人たちに木を使ってもらって、燃料でまきを燃やす。切り捨て間伐を活用できないか。(山本)



今後のスケジュール(予定)と情報提供



次回の山部会は6月19日(木)に開催します。

